

染織家 日下田正先生 による特別授業 (第1回・2回)

7月19日(火)と9月16日(金)の二日間、宇都宮短期大学附属高等学校アートルームにおいて、生活教養科2年ファッション専門分野生徒が、益子在住の染織家 日下田正先生(栃木県無形文化財指定、栃木県文化功労者)による特別授業を受講しました。

7月19日は、今年5月本校菜園に定植した藍の生葉を摘み取り、ジューサーで青汁にした染液を用いて、“シルクのハンカチーフ”を染色しました。9月16日には、紡毛機を使用して、藍や茜・蘇芳・槐などで染めた原毛を紡いで糸にするスピニングを行いました。今回の授業を通じて生徒たちは、化学染料に頼らず、天然素材を用いた手作り(手仕事)による草木染めの技法を科学的に学ぶことができました。また、手作りの温もりを感じる「手仕事(ものづくり)」に触れることができ、とても貴重な体験をすることができました。10月28日(金)には、本校菜園に播種した棉の木の綿摘みも行いました。綿の木を初めて見る生徒が多く、驚きながらも楽しそうに収穫していました。

【7/19(火)】



ジャパンプルーとは



青汁作り



藍染めのハンカチーフ

【9/16(金)】

【10/28(金)】



スピニング(原毛の糸紡ぎ)



綿摘み

日下田 正先生による 第3回染色特別授業

11月12日（土）、江戸寛政年間から続く益子町日下田紺屋において、本校生活教養科2年ファッション専門分野生徒が、染織家 日下田 正 先生（栃木県無形文化財指定、栃木県文化功労者）による特別授業を受講しました。

第3回目の特別授業で、あらかじめ絞っておいた綿ローンのハンカチーフを、藍甕の中の液体（スクモ（藍の葉）を発酵させて作られた）で染色する藍染めを体験しました。ハンカチーフを藍甕に付けて染色しては、空気に触れさせるという作業を繰り返し、深みのある藍色に染まっていく過程の面白さ、また藍染めの素朴な美しさに魅了されました。化学染めでは決して表現することのできない自然の美を知ることができ、また校内で収穫した綿花の綿繰り体験もしました。手仕事の温もりを県文化功労者である日下田 正 先生から直接ご指導いただくことができ、とても貴重な体験となりました。この体験を今後の作品制作に活かしていきたいと思います。



寛政年間初期から続く紺屋



甕場において藍染め実習



絞った糸をほどいてみると・・・



綿繰り体験の様子